

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立桑名北高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒と共に創る教育活動をとおして、地域に信頼される北高
(2)	育みたい生徒像	<p>① 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</p> <p>ア 社会人として、適切に意思疎通を図る力と良い習慣を身に付けた北高生</p> <p>イ 主体的に学び続ける姿勢と力を養い、地域や社会に貢献できる北高生</p> <p>ウ 以下に示す「7つの力」を身に付けた北高生</p> <p>①聴く力 ②話す力 ③書く力 ④読み取る力 ⑤考える力</p> <p>⑥前に踏み出す力 ⑦協働する力</p> <p>② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>ア 「自律・誠実・協働」の心を持った生徒を育む教育活動の推進</p> <p>イ 生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進</p> <p>ウ 人と人とのつながりの大切さを学べるよう、自他の理解、人間関係形成能力、コミュニケーション能力の育成を目指した学習活動を推進</p> <p>③ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>ア 規範意識や基本的な生活習慣が身についている生徒</p> <p>イ 大学進学など、明確な進路意識を持って学業に取り組める生徒</p> <p>ウ 部活動、生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に取り組める生徒</p>
	ありたい教職員像	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」を心がけ、授業改善に熱心に取り組む教職員</p> <p>② 夢や希望する進路が保障できるよう、様々なデータの分析結果を共有し、「キャリア教育」に取り組む教職員</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>① 生徒</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業と、「朝の学習の時間」等の取組により、学力が身についていることを実感し、充実した高校生活を送ることができる。</p> <p>② 保護者（各家庭、PTA）</p> <p>安全・安心に高校生活を送ることができるとともに、希望する進路が実現できるよう、学習活動やキャリア教育が充実している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<b>連携する相手からの要望・期待</b>	<b>連携する相手への要望・期待</b>
	① 保護者	① 保護者
	○ 安全・安心な学校	○ 教育活動への参画、家庭教育の充実
	○ 学力向上・進路保障が実現できる学校	○ 親子の豊かなコミュニケーション
② 地域住民（自治会）	② 地域住民（自治会）	
○ 地域の青少年の模範となる生徒	○ 学校教育活動への支援と理解	
○ ボランティア活動、防災等での地域連携		
③ 中学校	③ 中学校	
○ 学力・体力の向上、部活動の充実	○ 緊密な中高の連携と相互理解	
○ 進路の保障	○ 本校の特色や取組の中学生への紹介	
○ 多様な生徒への対応		
④ 事業所、NPO	④ 事業所、NPO	
○ マナー、コミュニケーション力の育成	○ キャリア教育充実のための連携強化（例：インターンシップ）	
○ 基礎学力の定着	○ 求人数の増加	
○ 忍耐力の育成		

<p>(3) 前年度の学校関係者評価など</p>	<p>【授業の改善】 「主体的・対話的で深い学び」を進めていくには、「振り返り」の活動が学習内容の定着に欠かせないものである。コロナ禍においては、ペアワークやグループワーク等が実施しにくい状況であるが、工夫を凝らして、学習内容の定着や学習意欲の向上につなげてほしい。</p> <p>【ICT教育の推進】 小学校、中学校においては、1人1台の学習端末を活用して、授業を行っており、既に生徒の端末の活用能力は、高くなっている。地元中学校等との連携を取り、生徒にとってより便利に、効果的に授業や学校生活において、端末を活用することができるように取り組んでほしい。</p> <p>【主権者教育の推進】 「北高カイゼンミーティング」の取組は、主権者教育の一環としても、校内の課題解決のため有効な手段の一つである。生徒が受け身の姿勢ではなく、主体的に身近な課題を考え、改善案を提案する貴重な機会であり、来年度も回数を増やすなどして継続をしてほしい。</p> <p>【基本的生活習慣の向上】 地域住民は、桑名北高生の様子をよく見ている。歩きスマホや狭い道の通行方法など、一部の生徒ではあるがマナーが気になっている。思いやりや譲り合いの気持ちを持ち、通学時のマナーが改善されるよう、生徒に粘り強く指導を継続してもらいたい。</p> <p>【学習環境の整備】 トイレが改修されたり、教室に扇風機が設置されるなどして、生徒の学習環境が整えられていることは素晴らしいことである。トイレ等校舎内をきれいに保つために、生徒に清掃の指導をするだけでなく、教職員が率先して掃除をしている姿を生徒に「見せる」ことで、生徒に環境整備の意識づけを図ってもらいたい。</p>
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>① 【学力の定着と向上】 朝の学習の時間や基礎学力診断テストを通して、基礎学力の定着に一定の成果は出ているが、積極的なICTの活用や教科を越えた授業見学により、授業力・指導力向上に取り組むことが必要である。</p> <p>② 【キャリア教育の推進】 3年間の系統立てたキャリア教育の営みを継続するとともに就職実績のノウハウを大学進学指導にも反映させていくことが必要である。</p> <p>③ 【生活習慣の確立】 朝の登校指導や個人面談の取組等、丁寧で粘り強い生徒指導を継続できているが、より時間・期日を守ることの指導を徹底していく必要がある。</p> <p>④ 【安全・安心の学校づくり】 日々の教育活動、高校生活が充実できるよう、新型コロナウイルス感染症の予防対策や自転車の安全運転指導等、安心して過ごすことができる学校づくりに引き続き取り組む。</p> <p>① 【円滑で戦略的な組織運営】 企画委員会において様々な情報共有と改善提案を行うほか、キャリア教育委員会でのオフサイトミーティングや主任会議等により、一層円滑で戦略的な組織運営を図る。</p> <p>② 【信頼の確保と指導力の向上】 信用失墜行為の根絶はもちろんのこと、一層の信頼の確保に取り組むとともに、生徒の思いや背景を受け止めることができるよう、授業・部活動はじめ教育活動全般で、指導力の向上を図る必要がある。</p> <p>③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校関係者評価委員会やPTA役員会等の外部の声を学校運営の改善につなげるしくみについて引き続き継続する。</p> <p>④ 【働き方改革の実効性の向上】 令和3年度に時間外勤務時間を縮減した成果を継承し、SSSの活用や支援員との協力、校務の精選等、より一層、働き方改革を進めていく必要がある。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>① 【学力の定着と向上】 「桑北スタンダード」の「活用」による「7つの力」の育成。</p> <p>② 【キャリア教育の推進】 好調な就職実績の継続とそのノウハウの進学指導への反映。</p> <p>③ 【生活習慣の確立】 丁寧で粘り強い生徒指導の継続と家庭学習の定着。生徒の参画による活動推進。</p> <p>④ 【安全・安心の学校づくり】 安全教育の推進と新型コロナウイルス感染症予防対策、危機管理体制の強化。</p>
学校運営等	<p>① 【円滑で戦略的な組織運営】 必要な会議の精選と日常的な情報共有の確保、新教育課程の着実な実施。</p> <p>② 【信頼の確保と指導力の向上】 日々の研鑽や研修を通じたコンプライアンス意識の向上、指導力の向上の取組。</p> <p>③ 【開かれた学校づくりの推進】 学校教育活動の地域等への発信、学校紹介動画等での啓発。</p> <p>④ 【働き方改革の実効性の向上】 計画的な業務の進捗管理と業務の精選の徹底。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

略称について

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。…【活標】と略します。  
 【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果などを指標にします。…【成標】と略します。  
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組  
 【その他の略表記について】本校の総合的な探究の時間を「みらい」といいます。…「みらい」と略します。

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 学力の定着と向上	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長</p> <p><b>【活標】</b></p> <p>①基礎力診断テストや実力診断テスト、朝学を通して基礎学力の定着を図る。 ②各教科において発展課題や追加課題を準備し、進度の差に対応する。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①基礎力診断テストの評価でD3の人数を20人以下、A評価者を3人以上、学年評価C以上。 ②学力上位層や進学希望者をピックアップし、次年度カレッジクラス希望者を40名確保。</p> <p><b>【2学年】</b></p> <p>①基礎学力の定着 ②学力上位層の実力伸長</p> <p><b>【活標】</b></p> <p>①基礎力診断テスト、授業、朝学を通して各コースに応じた学力の定着を目指し取り組む。 ②カレッジクラスにおいて、校外模試を推奨し、課外授業で対策授業を行い、進学に向けて必要な学力をつける。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①基礎力診断テストの評価でD3の人数を30人以下、学年評価C以上。 ②基礎力診断テストの評価Aゾーン3名以上、Bゾーン</p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①D3生徒数について 第1回はD3該当が46人だった。 第2回はD3学習会を実施し、計1時間程度担当の教員と勉強をする時間を確保した結果、38人まで減らすことができた。また、A評価者は2人、学年評価は「D1」と基礎学力の育成を図り、一定程度成果を収めることができたが目標達成はできなかった。 ②カレッジクラス希望者が48人おり、各々の進路希望や成績の状況を踏まえ個人面談など丁寧な進路指導を行い目標達成することができた。</p> <p><b>【2学年】</b></p> <p>①第1回 D3 … 51名 学年評価 … D2 - 第2回 D3 … 38名 学年評価 … D1 - 1年次より減少 学年評価はCゾーンの目標は達成できなかった。目標未達成。 ②第1回 Aゾーン … 0名 Bゾーン … 3名 第2回 Aゾーン … 4名 Bゾーン … 14名</p>	※

5名以上。実力テスト3教科200点以上を3名以上。

【3学年】

- ①基礎学力の定着
- ②学力上位層の実力伸長

【活標】

- ①基礎力診断テストや実力診断テスト、授業、朝学を通して基礎学力の定着を図る。朝学で継続的に一般常識ワークに取り組んでいく。
- ②各教科において授業内での発展課題や追加課題を準備し、進度・意欲の差に対応する。課外授業の実施・推奨。

【成標】

- ①基礎力診断テストの評価でD3の人数を20人以下、学年評価C以上。
- ②基礎力診断テストの評価Aゾーン7名以上、Bゾーン20名以上。

【教務総務部】

- ①生徒が主体的に学び合う学習の場をつくる。

【活標】

授業毎にペアワークやグループワークなどを組み込み、「主体的・対話的で深い学び」の構築に積極的に取り組む。

【成標】

- 生徒アンケートで、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることに対する肯定的な回答：70%以上
- ②わかる授業を実現する。

【活標】

ICTの活用やユニバーサルデザインの授業づくり等の基礎的環境整備と合理的配慮などにより、わかる授業への改善をすすめる。

【成標】

- 生徒アンケートで、「授業がわかる」の回答：75%以上。

【進路指導部】

基礎力診断テストおよび実力診断テストを軸として、生徒の学力把握と伸長をはかる。

- ①基礎学力の向上について組織的に取り組む。

【活標】

基礎力診断テストで各学年の平均値C段階以上。

【成標】

- D3を各学年・各回ともに15%以下。
- ②進路実現のための課外授業の充実。

【活標】

全学年に放課後課外を企画・実施。

実力テストBゾーン … 3名

1回目は目標達成できなかったが、2回目は達成することができた。カレッジクラスは、1回目はD3が0人だった。

【3学年】

- ①第1回 D3 … 55名  
学年評価 … D1 -

D3の数も2年次より増加。学年評価は目標のCゾーンにいたらなかった。目標未達成。

- ②第1回 Aゾーン…3名  
Bゾーン…10名

2年時よりもABゾーンともに半減してしまった。

3年のテストは難易度が上がり、上位層が苦戦したようである。

【教務総務部】

- ①生徒の実態調査アンケートより  
・「あなたは、ペアワーク・グループワークに参加できていますか？」の質問に対し、

「かなりそう思う」「そう思う」81.2% ⇒達成できた。

- ・あなたは、ペアワーク・グループワークを通して、学力が身についたと思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」76.7% ⇒達成できた。

- ②同アンケートより

・「桑名北高校の先生は、わかりやすい授業のための工夫をしていると思いますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」91.2% ⇒達成できた。

・「あなたは、桑名北高校で授業を受けて『わかる！』が増えてきたと感じていますか？」の質問に対し、「かなりそう思う」「そう思う」85.7% ⇒達成できた。

【進路指導部】

- ①各回の平均G T Z (D3率)は、3年① D1(28%)

2年① D2(28%) ② D1(24%)

1年① D2(23%) ② D1(19%)

となり、①は2月7日時点ではいずれも未達成となった。

- ②課外授業の参加のべ人数は、1学期 112名

(1年0名 2年12名 3年100名)

	<p>【成標】 課外授業の参加者のべ70人以上。</p> <p>≪各教科の目標≫ 「桑北スタンダード」を活用した授業を行う。</p> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台端末を用いた調べ学習や意見発表等を取り入れ、多様な生徒に配慮しながらグループワーク等で主体的に思考し学び合う機会を増やす。</li> <li>・また、漢字検定の資格取得を奨励し、学力の高い生徒には発展的な問題を勧めていく。(7つの力の「考える力」「読み取る力」「書く力」に特に注力する)</li> </ul> <p>【地理歴史・公民】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の考える力を育むことを目標とする。そのために、生徒が主体的に取り組む発問やワークを、全ての科目で1コマにつき1回取り入れて、教師主体の授業とならないよう授業の進め方に留意する。生徒がICT機器を活用して主体的に学ぶことができるような授業の組み立てを行っていく。</li> <li>・また、発想を広げたり、相手を尊重する気持ちを育むため、お互いの考えを共有し合う機会を設けたり、グループワークやペアワークを取り入れたりして、多様な考えに触れる機会を設ける。</li> </ul> <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワーク・グループワーク等の共同学習を通じて、桑名北高校7つの力を養える授業展開を行う。</li> <li>・週末課題や小テストなどを通じて、既習の学習内容のより深い定着を目指す。</li> <li>・毎時間、または定期的に授業の振り返りを行い、次回の授業で活かせるように仕掛けをする。(2, 3年生)</li> <li>・自分で单元ごとに自分で決めた取組目標を設定し、その進捗を確認(振り返り)させ、定期テスト時に報告書として提出させる。(1年生)</li> <li>・さらなるICT機器を活用した授業の組み立てを行い、教員一人ひとりが研鑽を重ね、実践し、より深い学習ができることを目指す。(特に1年生は、BYODを用いた授業を積極的に行う)</li> </ul> <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り、実物の資料やICTを使用し、生徒がイメージしやすい授業を心がける。仲間とともに課題や実験</li> </ul>	<p>2学期 23名 (1年6名 2年7名 3年10名) 3学期 12名 (1年4名 2年8名 3年0名) となり、②は達成した。</p> <p>≪各教科の結果≫</p> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員側もICT端末の使用に慣れ、「考える力」「読み取る力」「書く力」を意識しながら、意見発表やグループでの音読、意味調べなど、積極的にグループワークに取り組み、さまざまな授業実践ができた。</li> <li>・漢字検定第3回は、2月ということもあり、志願者が少なかった。</li> </ul> <p>【地理歴史・公民】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての科目において、「Key Question」や「考えてみよう」の項目を設け、生徒自身が主体的に考える機会をつくることができた。また、ワークの中で、Chromebookを使用して取り組む機会を増やした。その結果、生徒の様々な意見を取りこぼすことなく集約することができ、生徒自身も他者の意見を知る機会を作ることができた。</li> </ul> <p>【数学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業において、教員一方向の授業にならないよう心がけ、ペアワーク、グループワークの時間を設けることができた。</li> <li>・1年生とカレッジクラスにおいては週末課題を実施し、既習内容の定着をはかることができた。2年生は小テストを活用して既習内容の定着をはかり、定期テストにつなげることができた。</li> <li>・1年生については、BYODを活用(MetaMoJiClassRoomアプリを使った授業を中心に)し、生徒各自のパソコンを使いながら学習を進めることができた。また、目標設定シートについては、毎学期生徒に設定させて活用することはできたが、今後はこの目標設定シートをいつでも確認・入力できるよう、BYODをさらに活用していきたい。</li> </ul> <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトなどを用いて実験の映像やアニメーションを見せる</li> </ul>	
--	--	---	--

に取り組み、協力して課題を解決する力を養う。

#### 【保健体育】

- ・体育と保健の関連性を意識しながら、生涯を通して健康に生きるための知識、見方・考え方を学ばせる。
- ・個々の課題に対して、ICTの使用やペア活動・グループ活動を通して、他者と関わり合いながら協力して解決する力を養う。

#### 【芸術】

- ・物事を深く考える力をつけるため、鑑賞の授業や、ICTの活用などの工夫をしながら進める。また、生徒が集中して授業に取り組めるように授業環境を改善する。

#### 【英語】

- ・英語を「読む・書く・聴く・話す」の4つの技能をバランスよく学習できるような授業とする。基礎的な内容を繰り返し指導し学力の定着を図るとともに、学習の仕方を身につけ主体的な学習に結びつくよう指導する。
- ・また、ICTを活用し、SNS上で使われる英語など、生きた英語にも触れさせる。

#### 【家庭】

- ・感染対策を徹底しながら、実習においてペアワークを用い、教え合う機会を持たせる。相手の話を聞く態度やわかるように伝える努力により、協働する力を育成し、知識・技術の定着につなげる。
- ・また、1人1台端末を使用し、各自の進度にあった内容を繰り返し確認させ、技術の獲得につなげる。
- ・共有で使用する道具、個人の作品材料など、物の管理を徹底させる。

#### 【情報】

- ・ICT機器を活用し、自分の考えや体験を表現したり、他人の前で発表したりすることにより、それまでの学びを振り返ったり、自分と他者の意見や考え方を比較したりして自己発信能力や自己肯定感・コミュニケーション力を高める授業展開に取り組む。

#### 【商業】

- ・簿記については、ビジネスに関する実務との関連性を認識させる。プロジェクタを活用し、授業の効率化を図

ことで、生徒とイメージを共有できた。また、グループワークや実験を行うことで、協力して課題に取り組む力を養うことができた。

#### 【保健体育】

- ・授業の際に Chromebook を活用し動画の撮影や調べ学習を通して、知識の習得はもちろん、見方・考え方を深めることができた。
- ・新型コロナウイルス感染症のこともあり、グループ活動やペア活動を取り入れる際は人数や人との距離、形態に注意しながら行い、目標を達成することができた。
- ・グループ活動・ペア活動の際に Chromebook を使用し、技能習得の段階を撮影、確認することで技能向上にむけて意見を交換することができた。

#### 【芸術】

特に ICT の活用に力を入れることができた。授業環境に関しても、改善することができた。

#### 【英語】

基礎の定着に重きを置き、概ね目標を達成することができた。ICT を活用し、英語教材ではない生きた英語に触れさせることもできた。来年度は基礎の身についた生徒への指導にも重点を置きたい。

#### 【家庭】

一人一台パソコンに関しては上手に活用しきれなかった面もあるが、おおむね達成できた。

#### 【情報】

概ね目標を達成することができた。

#### 【商業】

- ・プロジェクタを使用することで板書の時間が短縮でき、効率的に授業

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理については、情報を収集・処理・分析し表現する一連の諸活動において情報を活用する能力・態度を養う。書画カメラを活用し、授業の効率化を図る。</li> </ul> <p><b>【ヒューマン】（学校設定教科）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク・保育園児との継続的交流を通して、自他への理解を深め、粘り強く人と関わる力を育てる。</li> <li>・ふりかえりによる気づきの明確化と定着、学びの共有を図る。</li> </ul>	<p>が行えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を活用する能力・態度を養うことができた。書画カメラの活用で、授業の効率化を図れた。</li> </ul> <p><b>【ヒューマン】（学校設定教科）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で園児との交流の回数が減った。しかし、回数に限られたからこそ、その都度、交流にこだわりをもって取り組むことができた。また、交流の気づきを明確化し、他者との共有を経て学びが深まるよう、毎交流後に振り返りシートを書き、次回までに意見を集約し、配布、共有することができた。さらに自他への理解を深めるために、園児との交流、各ワークはもちろんのこと、上級学校の先生を講師に迎え、出前授業をしていただいた。</li> </ul>	
<p>重点② キャリア教育の推進</p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①7つの力を意識したキャリア教育 ②身だしなみを整える。時間を守る。</p> <p><b>【活標】</b></p> <p>①「みらい」の授業ごとに自分に身についた力を振り返り、ふりかえりシートで積み上げていく。インターンシップと「探究」の連動。また、「探究」の成果をデータ化し、ポートフォリオのように保存していく。 ②いつでも面接にいけるような身だしなみをする。毎授業でのベル席の徹底。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①1学年終了時に、各生徒が「みらい」で身についたと実感できる力を、7つの力の中から3つピックアップ。年間4回以上、「探究」の成果をデータで保存していく。 ②生徒自身で気づき、身だしなみを整えることができる。チャイム後の各授業開始時に全員着席。</p> <p><b>【2学年】</b></p> <p>進路選択に合わせたキャリア教育</p> <p><b>【活標】</b></p> <p>「探究」の時間に自分が目指す進路に向けて自己分析ができる教材や情報を提供する。企業や上級学校の方に直接話を聞いたり、見学する機会を作る。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>自分に合った職種や仕事を知るために外部サイトを使用してデータとして残り振り返りができるようにする。たくさんのお仕事を知る。</p> <p><b>【3学年】</b></p> <p>①進路実現 ②社会との接続</p> <p><b>【活標】</b></p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①授業ごとのふりかえりシートだけでなく、年度初めと年度末にステップアップシートで自身の1年のふりかえりも行うなど成長を実感できる機会を設けることができた。「探究」ではインターンシップでの経験を生かして、仕事の現状・課題などについて深く学び、考えることができた。 ②一定数、スカートの折り曲げ、スカート下にズボン着用、ウィンドブレーカーの下に私服着用など違反をしてしまう生徒がいた。ベル席も1学期はできたが、2・3学期はチャイム後に授業の用意をする生徒もいたため目標達成とはいかなかった。</p> <p><b>【2学年】</b></p> <p>2年次の3学期には求人票が、自由に見られるサイトへ登録をした。朝学や週末課題では、進路に合わせた課題に取り組むことができた。SPI や小論文トレーニングを反復的に行った。</p> <p><b>【3学年】</b></p> <p>①2月10日時点で進路未決定者13名。進路決定のために現在も活動を続けており、卒業後もサポート</p>	<p>※</p>

	<p>①進路説明会、みらいセミナー、面接練習等の進路行事と連動しながら進路実現に向けた学年の気運を高めていく。特にカレッジクラスの進学対応に関して、学年団全体でサポートしていく。</p> <p>②社会との接続を意識した「みらい」での行事・各種セミナーを通して、今後のキャリアイメージを持ったうえで卒業させる。</p> <p>【成標】</p> <p>①進路決定 100%</p> <p>②今年度3学年 196名全員卒業</p> <p>【生徒指導部】</p> <p>①挨拶が行き交う学校づくりを行う。</p> <p>【活標】</p> <p>「挨拶は桑北の光」という標語を用いて、挨拶が行き交う雰囲気をつくっていく。</p> <p>【成標】</p> <p>生徒アンケートで、「挨拶ができた」の回答：90%以上。</p> <p>②身だしなみ・頭髪の指導を行う。</p> <p>【活標】</p> <p>各学期に2回の「頭髪・服装指導」と日々の校門指導を基本とし、いつでも進学・就職試験を受けられる状態にする。</p> <p>【成標】</p> <p>頭髪服装の再指導人数が全体の5%以下。</p> <p>【進路指導部】</p> <p>総合的な探究の時間「みらい」を計画的・効果的に企画・運営し、生徒のキャリア形成を促しつつ進路意識の向上を図る。</p> <p>①年間計画に基づく効果的なキャリア教育の推進</p> <p>【活標】</p> <p>中・小 PDCA サイクルを活かしたキャリア教育の実施。</p> <p>【成標】</p> <p>生徒アンケートによる満足度 90%以上。 昨年度卒業生の1年以内の早期離職率 10%以下。</p> <p>②各学年との連携</p> <p>【活標】</p> <p>進路指導部の「みらい」担当と学年との打ち合わせを密にする。</p> <p>【成標】</p> <p>学年会議で「みらい」打ち合わせ 100%実施。 学級担任からの企画についての評価回収 100%。</p>	<p>を継続していく。</p> <p>②3学年生徒 194名が卒業予定。 2名は本人の希望により他校への転学希望。入学 200名中 97%が卒業予定。</p> <p>【生徒指導部】</p> <p>①「挨拶ができた」の回答が 92.4%であり、目標を達成できた。挨拶を日常的に行う雰囲気ができている。</p> <p>②各学期2回の「頭髪・服装指導」と校門指導を実施したが、再指導人数は全体の 4.0%で目標であった5%以下を達成できた。</p> <p>【進路指導部】</p> <p>修学旅行の日程変更等に伴う予定変更や探究活動についても学年の要望や生徒の実態を踏まえて柔軟に運用した。①②についても達成。</p> <p>今年度は生徒のモチベーションの低下や欠席・遅刻の多さ、ルーズな部分が各学年とも目立った。コロナの流行やそれに伴う制限などをある種「言い訳」にした面もあるが、新型コロナウイルスの各種対応の見直しを見据えて、時宜に応じた適切な指導を行う必要性を強く感じる。</p>	
<p>重点③ 生活習慣の確立</p>	<p>【1学年】</p> <p>①遅刻・欠席数の減少</p> <p>②1人1台端末の活用習慣化</p> <p>【活標】</p> <p>①遅刻・欠席生徒としっかりと対話し、家庭とも連携する。</p> <p>②健康チェック、各分掌の連絡、当日の連絡など、朝のSHR時に一人ひとりがパソコンを立ち上げ確認するよう促していく。</p> <p>【成標】</p>	<p>【1学年】</p> <p>①昨年度遅刻数が 2.5%で、今年度は 2.2%だったので目標達成できた。</p> <p>②大半の生徒はパソコンを用意して朝のSHRに臨んでいたが、パソコン忘れや充電し忘れなどで用意が出来ず貸し出し用のパソコンを借りに行く生徒も一定数いたので習慣化されているとは言い難い。</p>	<p>※</p>



- ①学年遅刻数の昨年度比減。
- ②始業チャイムまでに全員がパソコンを机上に準備できる。

**【2学年】**

- ①遅刻・欠席数の減少
- ②身だしなみの徹底

**【活標】**

- ①朝学に計画的に取り組むことで授業を落ち着いて受けられるようにする。遅刻生徒としっかりと対話し、その家庭と連携する。
- ②服装・頭髪について身だしなみを整えることの意義を伝える。朝の SHR で全クラスで身だしなみチェックをする。

**【成標】**

- ①学年遅刻数の昨年度比減。
- ②各頭髪服装指導の該当者を 10 人以下にする。

**【3学年】**

- ①遅刻・欠席数の減少
- ②身だしなみを整える

**【活標】**

- ①朝学に計画的に取り組む。遅刻生徒としっかりと対話し家庭と連携する。
- ②服装・頭髪について予防と対応を使い分け、身だしなみを整えることの意義を伝える。

**【成標】**

- ①学年遅刻数の昨年度比減。
- ②各頭髪服装指導の該当者、各クラス 3 名以下。

**【2学年】**

- ① 1 学期遅刻数 370 件  
(昨年 206 件)
- 2 学期遅刻数 363 件  
(昨年 296 件)

昨年度は 9 月が休校だったため、単純比較はできないが、遅刻数は昨年度 2 学年よりも増加傾向にある。目標未達成。

- ②頭髪指導で改善を求められた人数 (1～5 組の合計)
- 4 月男子… 3 人 (達成)  
女子… 6 人 (達成)
- 6 月男子… 2 人 (達成)  
女子… 6 人 (達成)
- 9 月男子… 3 人 (達成)  
女子… 6 人 (達成)
- 10 月男子… 6 人 (達成)  
女子… 6 人 (達成)
- 1 月男子… 3 人 (達成)  
女子… 7 人 (達成)

**【3学年】**

- ① 1 学期遅刻数 430 件  
(昨年度 3 学年 364 件)
- 2 学期遅刻数 665 件  
(昨年度 3 学年 679 件)

昨年度 9 月が休校だったため、単純比較はできないが、遅刻数は昨年度 3 学年よりも増加した。特に 1 学期の遅刻数を減らすことができなかったことは大いに反省すべき点である。

- ②頭髪服装指導で改善を求められた人数 (1～5 組の合計)
- 4 月男子… 1 人 (達成)  
女子… 11 人 (未達成)
- 6 月男子… 0 人 (達成)  
女子… 2 人 (達成)
- 9 月男子… 1 人 (達成)  
女子… 11 人 (未達成)
- 11 月男子… 1 人 (達成)  
女子… 9 人 (未達成)
- 1 月男子… 5 人 (未達成)  
女子… 6 人 (未達成)

総じて女子の身だしなみ指導に苦心した。年度当初の 4 月や、就職試験が始まる 9 月にはいつも以上に丁寧に頭髪指導を行った。進路が概ね決定する 11 月以降は指導の対象も増えてしまった。

	<p><b>【生徒指導部】</b></p> <p>①全生徒が遅刻せず一日の学校生活を有意義にスタートさせる。</p> <p><b>【活標】</b> 遅刻指導（回数による段階的な指導）を遅刻数増加のはじめとする。生徒手帳へ遅刻状況を記録させることで自身の現状把握につなげる。</p> <p><b>【成標】</b> 全学年の遅刻者率（※）：各学期・年間で3%以下。 ※遅刻者率＝遅刻者数／（在籍者数×授業日数）</p> <p>②アルバイト等、学校外の活動で生活習慣が乱れないように指導する。</p> <p><b>【活標】</b> アルバイト許可については経済的な理由等、やむを得ない理由がどうか、また成績不振科目がないかどうか確認して手続きを行う。無断アルバイトがないよう、周知する。</p> <p><b>【成標】</b> 無断アルバイト件数5件以下。</p> <p><b>【保健部】</b> 自分を守るために、良い習慣を身に付ける指導、啓発を行う。特に新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症について、予防啓発を重点的に行う。</p> <p><b>【活標】</b> 全学年で朝食や睡眠、手洗いなど基本的な生活習慣の確立についての指導・啓発。</p> <p><b>【成標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学オリエンテーションで保護者、生徒に指導：1回ずつ。</li> <li>・健康管理に対する意識啓発：健康観察表の活用。</li> <li>・保健通信の発行：年間10回以上、必要に応じて随時発行。</li> <li>・掲示物の作成：年間5回以上。</li> <li>・保健調査や健康診断結果による面談。</li> <li>・来室時における個人指導などの実施。</li> </ul>	<p><b>【生徒指導部】</b></p> <p>①遅刻手続きで生徒手帳に記入するように指導したが、生徒手帳を持っている生徒が少なかった。遅刻者率は1学期2.4%、2学期3.4%、全体3.0%で2学期は目標を達成できなかった。</p> <p>②今年度の無断アルバイトでの指導件数は5件で目標を達成することができた。各家庭の経済状況も様々であり、許可条件など見直す必要があると感じた。</p> <p><b>【保健部】</b> 学期毎に定期的にオンライン講話で生徒に注意喚起を呼びかけるなど意識向上に取り組んだ。達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の啓発</li> </ul> <p>保護者に1回実施、生徒対象に8回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察表の管理</li> <li>・保健通信→11回</li> <li>・保健室前掲示→5回</li> <li>・個別面談・保健指導の実施</li> </ul>	
<p>重点④ 安全・安心の学校づくり</p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①家庭との連携 ②清潔な学習環境 ③新型コロナウイルス感染症対策の徹底</p> <p><b>【活標】</b></p> <p>①学年通信の発行。少しでも気になる様子があれば家庭へ連絡をし、情報を共有する。</p> <p>②HR 教室・トイレ・廊下の清掃を徹底する。放課後、教室の机上やロッカーに荷物が無いよう指導する。</p> <p>③「3密」に気をつけながら学習活動を展開する。昼食時には教員の見守り指導など、徹底した黙食指導を行う。</p> <p><b>【成標】</b></p> <p>①各クラス年度当初の保護者との情報共有10人以上。 ②毎日の清掃。 ③昼食時の見守り指導 年間20回以上。</p>	<p><b>【1学年】</b></p> <p>①学年通信は7回発行し、学校の生活の様子を保護者の方々にも知ってもらうことができた。また、面談や電話連絡など保護者との情報共有も密に行うことができた。</p> <p>②教室の清掃だけでなく、トイレや廊下など毎日人の往来が多く汚れやすいところは特に徹底して掃除することができた。</p> <p>③昼食時の黙食指導は年間70回以上行い、新型コロナウイルス感染症対策は徹底できた。</p>	<p>◎</p>

【2学年】

- ①いじめを迅速に認知できるようにする。
- ②家庭との連携
- ③清潔な学習環境

【活標】

①いじめに対する教員のアンテナを高くし、生徒の表情や言動に注意して早期発見・早期対応を行う。そのための情報共有をこまめに行う。

②学年通信の発行。対面での面談実施。

③HR 教室・トイレの清掃を徹底する。

【成標】

- ①いじめの重大事態0件。
- ②学年通信の発行 年間10回以上。
- ③毎日の清掃。

【3学年】

- ①いじめの積極的認知
- ②清潔な学習環境

【活標】

①いじめに対する教員のアンテナを高くし、いじめの芽の段階から早期発見・早期対応を行う。そのための情報共有をこまめに行う。

②HR 教室・廊下・トイレの清掃を欠かさない。放課後はイスを机の上に載せ、整理整頓された状態を維持する。

【成標】

- ①いじめの重大事態0件（いじめを積極的に認知する姿勢を持つ）。
- ②毎日の清掃・教室整備・3学年フロアの換気。

【教務総務部】

①生徒一人ひとりの心を動かす人権教育を実施する。

【活標】

全学年で人権 LHR を2回、人権講演会を年1回実施する。職員研修を年2回以上実施する。

【成標】

開催後の生徒アンケートで満足度85%以上。

②「障害者差別解消法」の視点から教育活動を点検・改善する。

【活標】

合理的配慮が法的義務であることから、その実施状況について点検を行い、改善策を作成する。

【成標】

点検と改善検討を年1回以上行う。

【2学年】

①いじめの重大事態0件  
いじめの認知件数10件(2学期末)早期対応の成果として認知件数は2桁を越えたが、重大事態には至っていない。達成。

②学年通信は10号まで発行予定。学期末だけでなく、毎テストごとに保護者会を実施。

③清潔な環境作りを心がけ、日々の清掃をしっかりと行った。3F廊下の汚れ取りとワックスがけ。各クラスの生徒の机上の整理整頓。

【3学年】

①いじめの重大事態0件  
いじめの認知件数20件(2月時点)早期対応の成果として認知件数は20件を越えたが、重大事態には至っていない。達成。

②清潔な環境作りを心がけ、日々の清掃をしっかりと行った。テスト期間など、生徒の清掃がない時ほど清掃の意識を持つようにした。

【教務総務部】

①人権 LHR は以下のテーマで2回実施した。

第1回(1学年「インターネット・SNSの人権について考えよう」/2学年「戦争と人権『原子爆弾』について学ぶ」/3学年「就職差別を許さないために」)2,3年生の人権 LHR 満足度調査では「大変満足」「満足」の合計が84%となり、目標をわずかに達成することができなかった。

第2回(各学年人権講演会事前事後学習:障がい者の人権について)人権講演会は、水谷展子さんに「障がい者の人権」をテーマに実施した。事前・事後アンケートを実施し、障がい者の人権問題について差別をなくすことができると思いますかの質問では、「ややそう思う」「そう思う」の回答合計が事前59%から事後72%に向上した。

②生徒・職員対象に「障がい者の人権」をテーマに講演会や研修を行い、障がい者差別について考える機

	<p>【生徒指導部】</p> <p>①交通ルール・マナーを遵守し、事故の被害者にも加害者にもならないよう指導する。</p> <p>【活標】</p> <p>講話や桑北だよりを通して交通マナーの大切さや、事故防止について発信する機会を確保する。</p> <p>【成標】</p> <p>登下校時事故件数5件以下。</p> <p>②いじめのない生徒関係の構築を行う。</p> <p>【活標】</p> <p>いじめ防止講話を実施する。学校生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。</p> <p>【成標】</p> <p>年3回、学校生活アンケートを実施し、活用する。</p> <p>【保健部】</p> <p>①生徒の問題行動に対する予防的な教育を積極的に推進する。</p> <p>【活標】</p> <p>1年生：養護教諭と保健体育科の連携による性教育や外部講師を活用したデートDVについての指導。</p> <p>2年生：健康診断の事前指導・事後指導による健康管理能力を高める教育。</p> <p>3年生：妊娠・出産についての性教育（外部講師を活用）。</p> <p>【成標】</p> <p>各予防教育実施後の生徒アンケート満足度：各85%以上。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症に対する予防的措置を講じる。</p> <p>【成標】</p> <p>手指消毒アルコール液・手洗い石鹸の設置、教室の机や椅子・廊下のドアノブ・手すり等共用部分の消毒、換気の徹底、黙食指導。</p>	<p>会を設けた。また身体障がい者や性的少数者に対して関係学年分掌で話し合い合理的配慮を行った。</p> <p>【生徒指導部】</p> <p>①年2回発行している桑北だよりで交通マナーについての文章発信をした。地域からの情報があった場合は各クラスでその都度伝えてもらった。登下校時事故件数は6件で目標は達成できなかった。</p> <p>②学校生活アンケートは、学期毎に3回実施した。4月の学年集会時にいじめ防止の講話をした。</p> <p>4月・11月にピンクシャツ運動を生徒会役員を中心に有志の生徒75名とともに実施し、意識の向上に努めた。</p> <p>【保健部】</p> <p>①達成</p> <p>1年：性教育を各クラスにて9月に実施。満足度91%。デートDVの講話は、5月に実施し92%が満足の結果となり達成できた。</p> <p>2年：個別面談を実施した。</p> <p>3年：12月実施の性教育の講話については93%が満足の結果となっており、目標を達成できた。</p> <p>②手指消毒アルコール液・手洗い石鹸を常備するとともに、教室の机・イス、ドアノブ・手すり等共用部分の消毒、換気の徹底について呼びかけを行った。</p> <p>黙食指導についても各教室に教員を割り当てて取り組んだ。</p>	
--	--	--	--

### 改善課題

【遅刻者】

遅刻者がなかなか減少していかない傾向にある。家庭とも連携しながら、規則正しい生活を送ることができるように指導等を継続していく必要がある。

【卒業後の進路決定】

今年度の卒業生は、3年間コロナ禍で過ごした学年であるが、進学も就職もしない生徒数が例年よりも多くなった。引き続き、進路決定に向けて、系統立てたきめ細やかな指導を継続していく必要がある。

【1人1台学習端末】

来年度は、1人1台の学習端末を活用して、学習活動を進めていく学年が2学年分となることから、校内運営体制、指導計画等を更に充実させていく必要がある。

(2) 学校運営など

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>重点① 円滑で戦略的な組織運営</p>	<p><b>【学校運営】</b> 教育課題に対応するカリキュラムマネジメントを推進する。 ・「基礎力診断テスト」をメインにした学力定着の取組が奏功しており、また、「みらい」・LHR 等によるキャリア教育の充実により、生徒の進路意識の向上が図られている。 「コミュニケーション授業」も含めたこれら本校の特色あるフレームを継承・深化させ、学校のさらなる活性化につなげていく。 ・また、各種委員会を活性化させることで、学校の教育課題を解決していく視点でのカリキュラムマネジメントを行う。</p> <p><b>【活標】</b> 「主任会議」「企画委員会」「ICT 委員会」「学校信頼向上委員会」等を開催し、円滑で戦略的な組織運営を図る。</p> <p><b>【成標】</b> 「主任会議」：毎週 1 回、「企画委員会」：毎月 1 回開催 「ICT 委員会」「学校信頼向上委員会」による喫緊の課題への対応。</p>	<p><b>【学校運営】</b> ・「主任会議」は、木曜日 6 限目に設定したことから、学校行事等を除き毎週定期的で開催し、課題解決に向けて適時即応した学校運営につなげることができた。 ・「企画委員会」は、ほぼ毎月 1 回開催し、予定された各活動の円滑な遂行に寄与した。 ・「ICT 委員会」と「学校信頼向上委員会」は、必要に応じて開催し、課題解決に即応した。</p>	
<p>重点② 信頼の確保と指導力の向上</p>	<p><b>【学校運営】</b> ①学力の定着と授業力向上の重点化を図る。 落ち着いた様子を見せている生徒の状況をふまえて、特に授業力の向上について、重点化して取り組む。</p> <p><b>【活標】</b> 基礎学力の確実な定着に向けた学習・指導方法の開発及び PDCA サイクルの構築を図る。</p> <p><b>【成標】</b> 管理職による授業見学：年 1 回以上実施 ②「学校信頼向上委員会」の主導による信頼確保のための研修をはじめ、セルフチェックや管理職による面談等を実施するとともに、人権研修を行う。</p> <p><b>【活標】</b> 人権とコンプライアンスに係る研修の実施、会議、面談等でのコンプライアンスに係る声かけ。</p> <p><b>【成標】</b> それぞれの研修：年 1 回実施 セルフチェック：年 2 回実施 「信頼される学校であるための行動計画」に基づく取組</p> <p><b>【教務総務部】</b> <b>【活標】</b> 教員の授業力向上を目的とした授業公開・授業研究を（年 2 回、各 1 週間、一人当たり 2 回以上の授業見学）を実施する。 <b>【成標】</b> ・一人当たり 2 回以上の授業見学の実施：80%以上。 ・「主体的・対話的で深い学び」に関する評価について研究を行う。</p>	<p><b>【学校運営】</b> ①管理職による授業見学は、年 2 回の授業公開週間等に実施し、授業者に指導・助言した。 ②人権研修は 2 回（部落差別、障がい者の人権）とコンプライアンスにかかる研修は 3 回（わいせつ、飲酒、体罰）実施した。また、個人面談の機会に管理職からの声かけも実施した。 コンプライアンスにかかる意識の醸成については、「信頼される学校であるための行動計画」をふまえ、これまで紙媒体で実施していた「コンプライアンス・セルフチェック」を Google フォームに変更し、年間計 6 回実施した。</p> <p><b>【教務総務部】</b> 今年度も 2 回の公開授業を実施。2 年ぶりに、学校関係者評価委員の皆様および近隣中学校・県立高校の先生方へも案内を送付。本校在校生の保護者とも合わせて、20 名の方に来校いただいた。 教員の授業見学回数について、2 回以上 92.4%⇒達成できた。</p>	◎

<p>重点③ 開かれた 学校づく りの推進</p>	<p>【学校運営】 ①家庭・地域連携の強化と教育活動の地域発信を図る。 【活標】 学校実態調査アンケートの実施と分析。 【成標】 9月の職員会議で定点分析報告。 【活標】 HP、きずなネット、Google Classroom、報道機関、アプリ「私の学校」を活用した効果的な情報発信。 【成標】 必要な情報発信：100% 【活標】 遠足・体育祭・文化祭の前、回覧板への情報発信：年3回 【成標】 発信率：100% ②学校関係者評価、PTA 役員会、生徒会等の改善提案を生かした学校づくりを行う。 【活標】 学校関係者評価委員等から提出された改善提案を、次年度の教育活動の改善につなげる。 【成標】 改善提案に関連する改善事例：2件以上 ③学校運営費の適正かつ効率的な運用に努める。 【活標】 各学年・分掌の要求に基づき学校運営費を適正に配分するとともに、効率的な運用に努める。 【成標】 教職員アンケート：満足度 90%以上 ④快適かつ安全・安心な教育環境の充実に取り組む。 【活標】 危険箇所を中心に、学校施設・設備などの整備・点検・修繕を行うとともに、新型コロナウイルス感染症予防を徹底するなど教育環境の充実を努める。 【成標】 教職員アンケート：満足度 90%以上</p>	<p>【学校運営】 ①7月に実施した「実態調査アンケート」については、集計・分析結果をPTA 発行の「桑北だより」で発信した。 学校HPは、長期休業中を除きほぼ毎週の頻度で、体育祭や文化祭などの学校行事等様々な活動を発信できた。また、発信内容によりきずなネットやGoogle Classroom等を選択しながら、適時必要な情報を発信した。 ②生徒会活動により出された改善提案（「北高カイゼンミーティング」の取組）について、各部各学年での検討をふまえ、次年度の活動につなげていく ③新型コロナウイルス感染症の影響での物価高騰及び原材料不足による半導体等の物品の遅延があり、また光熱水費も大幅な上昇となり、昨年度よりも予算が厳しい中、会計規則に基づいた適正な会計事務を行った。 ④生徒が安全に学校生活を送れるよう、渡り廊下の雨漏り修繕を行った。光熱水費削減のために県教育委員会が予算を付けている教室のLED照明への取替修繕は、管理普通教室棟の3階及び4階を行い、普通教室及び選択教室は全てLED照明となった。放送設備の修繕も行った。 ・その他施設修繕 17件</p>	
<p>重点④ 働き方改 革の実効 性の向上</p>	<p>【学校運営】 総勤務時間の縮減を進めるため、時間外労働時間を遵守するとともに、計画的かつ組織的な学校運営に取り組むことにより、学校の働き方改革を推進する。 【活標】 ①定時退校日の定時に退校できた教職員の割合。 ：80%以上 ②計画した日に休養日を設定できた部活動の割合。 ：100% ③放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合。 ：90%以上 ④スクール・サポート・スタッフ、支援員の有効的な活用。 【成標】 働き方改革の推進 ・時間外労働時間 ①一人あたりの月平均時間外労働：15時間以下 ②年360時間を超える時間外労働者数：0人</p>	<p>【学校運営】 ・総勤務時間の縮減（1月末現在） ① R3年度 63%→R4年度 75% ② R3年度 100%→R4年度 100% ③ R3年度 79%→R4年度 85% ④ スクール・サポート・スタッフ（SSS）と支援員の配置により、教員の業務量の軽減につながった。 ・時間外労働時間の縮減（1月末現在） ① R3年度 14.5h→R4年度 23.3h ② R3年度 2人→R4年度 10人 ③ R3年度 17人→R4年度 53人 ・休暇取得 R3年度 14.1日→R4年度 15.3日</p>	<p>※</p>

③月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人 ・休暇取得 一人あたりの年間休暇取得日数：前年度比1日増加		
<b>改善課題</b>		
<p><b>【時間外労働時間】</b>          時間外労働時間の縮減については、設定した成果指標を3つとも全て達成することができなかった。業務分担の在り方や業務量を見直す等、地道に働き方改革の取組をすすめていく必要がある。</p> <p><b>【生徒募集】</b>          今年度は、入学者選抜において、2年振りに定員割れをしてしまった。少子化の状況の中、中学生や保護者、地域社会に対して、如何に本校の魅力を発信していくか、知恵を出し合う必要がある。</p>		

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p><b>【育成をめざす資質・能力】</b>          本校の「宝物」といってもよい「7つの力」について、アンケート結果を踏まえると、抽象度が高く、社会人となった時に特に必要とされる「⑥前に踏み出す力」「⑦協働する力」を3年間の見通しを立てて、系統的に身につけていけるような工夫が必要と考えられる。</p> <p><b>【資格の取得】</b>          基礎学力や学習意欲の向上等には、資格の取得が有効な手段の一つと考えられる。履歴書や調査書に記入できる取得が一つでもあった方が、受験先の印象が良くなることもあるかもしれないので、検定試験の合格や資格の取得を更に積極的にすすめてもらいたい。</p> <p><b>【基本的生活習慣の向上】</b>          地域の道路を通学する際の自転車の運転マナーや歩きスマホ等について、一部の生徒ではあるが、地域住民の方の関心が高い状態が続いている。引き続き、教職員が地域を巡回するなど、生徒の通学時のマナーが改善されるよう、家庭の協力も仰ぎながら、生徒への指導を継続していつてもらいたい。</p> <p><b>【働き方改革の推進】</b>          教職員の時間外労働時間が減少していない状況が続いている。「お金がないから何もできない」という考え方はせず、効率よく業務を遂行していくために、できることから一つずつ取り組んでもらいたい。</p>
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p><b>【基礎学力の定着・向上】</b>          「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール（基礎力診断テスト）や、1人1台学習端末を効果的に活用するなどして、引き続き生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着と向上に努めていく。</p> <p><b>【外部人材との連携】</b>          様々な支援が必要な生徒に対して、引き続き、校内で情報共有や研修をすすめ対応していくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員、外国人生徒支援員等外部人材との連携を深めていく。</p>
学校運営についての改善策	<p><b>【業務の見直し】</b>          全ての業務をコロナ禍以前に戻すのではなく、その意義や目的に鑑み、適切な取捨選択を行うことで、時間外労働時間の縮減にもつなげていく。</p> <p><b>【広報活動】</b>          ホームページによる情報発信を充実させるだけでなく、中学校訪問の在り方について検討するとともに、他の地区のように、地元の中学校へ出向いて、出前授業や進路説明会ができないか探っていく。</p>